

構造改善事業の5事例紹介

振興センター制度活用希望者の参考に

エルピーガス振興センターは10月23日、東京・港区のTRP新橋カ
ンファレンスセンターで構造改善推進事業の平成29年度実施事例発表
会を行った。28年度に実施した補助事業のうち、代表的な5事業を
実施事業者が説明。ほかの事業者が有効活用し、今後の制度活用を検討
する事業者の参考とするため行ったもの。

発表事業者とテーマ
は、伊丹産業「LPガス見える化システムの構築による利用者への安心・安全の提供を図る事業」、LPガス夢フェスタ実行委員会「LPガスの優位性をアピールし経営の活性化を図る事業」、日本ガスコム「集中監視システム導入によるコス

ト削減と顧客信頼度向上による経営基盤強化事業」、コアガス日本「顧客との接点強化を目的としたLPガス見える化システム構築事業」、福井ツバメ商事「新料金システム推進と検針業務合理化を目的としたタッチ検針導入事業」。

伊丹産業は、先駆的に集中監視システムを導入。今回の事業ではUパス超音波メータや集中監視システムの利
用でLPガス使用量全体や器具別使用料の「見える化」サービ

との比較を「見える化」し省エネ活動が推進されたことや、需要家への料金透明性、高効率機器の普及提案、ガス事業の先進性PRなどでも有効と説明した。LPガス夢フェスタ実行委員会は、福岡県嘉飯地区(飯塚市、嘉麻市、桂川市)のLPガス事業者48社で構成。昨年11月にイオン穂波ショッピングセンター(飯塚市)で「LPガス夢フェスタ2016」を開き、消費者にLPガスのよさを訴求し経営活性化を図った。機器展示に炊き出し試験、子ども向け参加イベントなどを実施し、フェア後の機器販売や問い合わせも増えた。日本ガスコムは、集中監視システムの導入で検針コスト削減や迅速な保安確保のほか、

大家への保安業務レベル向上PRなど企業イメージアップにもつながると説明。今後も年間1000程度の集中監視機器を設置し、10年以内に集合住宅などの集中監視システム設置率を過半まで高める。コアガス日本は、ガスの料金透明性を訴求し「見える化」サービスを推進。スマートメータ、Uパスエアー(無線子機)を設置し検針業務効率化、集中監視によるガスの安全・安心PR、「見える化」によるガス使用量・料金透明化、バナー広告によるPRなどの成果につなげた。「見える化」サービスはホームページやチラシで周知している。福井ツバメ商事は、新料金メニューやタッチ検針システム導入で需要拡大、料金透明化、経営基盤強化、業務効率化などの効果があった。需要拡大では、ガス器具に合わせた料金メニューの提案で営業マン1人当たりのガス減っているが、コミュニケーションの重要性という原点に返ること。28年度の86補助事業はすばらしい内容だが花火で終わらせてはならない。日々繰り返し欲しい」と求めた。



それぞれ効果などを発表した

電気使用量

速な保安確保のほか、

メニューの提案で営業